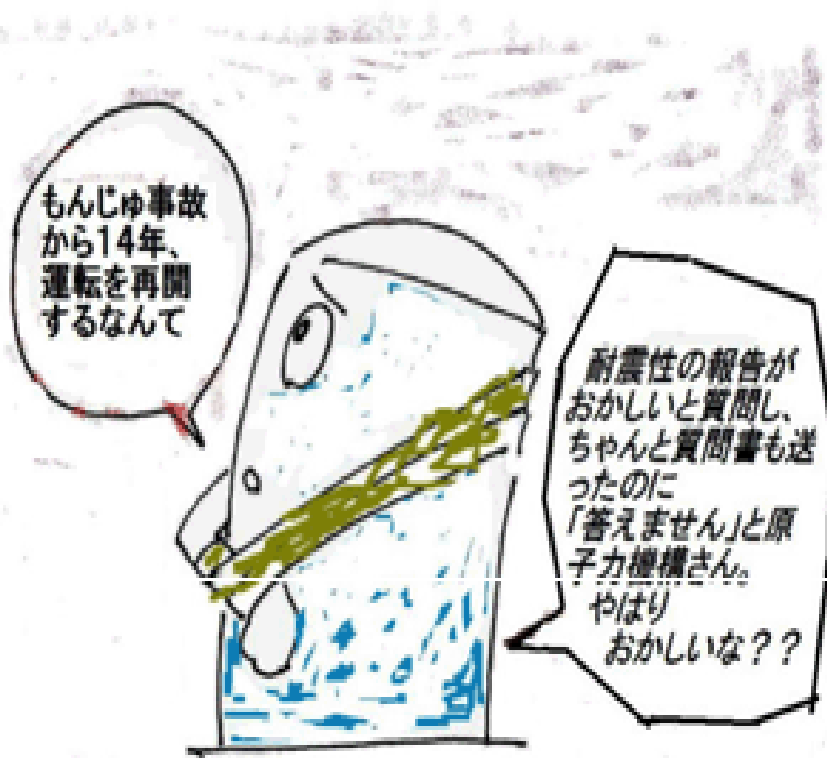


原子力研究開発機構には、 もんじゅを動かす資格はありません 耐震性に問題あり

もんじゅの運転再開は許しません



2009年12月白木浜での
「もんじゅを廃炉に」全国集会



1995年12月、ナトリウム漏れ火災事故から停止している高速増殖炉「もんじゅ」の運転再開に向け、日本原子力研究開発機構(以下「原子力機構」)は2月23日、福井県、敦賀市へ「安全協定に基づく協議願い」を提出し、受理されました。もんじゅの耐震安全性を巡っては、まだ、確認作業が国の作業部会で継続中ですが、運転再開手続きは「地元が了承するかどうか」にかかってきました。

質問書を提出しても答えない原子力機構

敦賀半島周辺には活断層がひしめきあい、設計時に考慮された基準地震動の引き上げが数度にわたってなされてきました。しかし、引き上げられたその数値の根拠について、きちんとした説明がなされていません。原子力機構の耐震性再評価の報告内容にも大きな問題点が存在します。もんじゅの安

全説明会（美浜会場）で、この問題を問いただしたところ、説明会終了後、機構職員が「質問があるのなら文書で出して下さい」と言ってきました。これに応じて、私たちは昨年12月14日、「もんじゅの耐震性安全評価に対する公開質問状」を提出しました。2ヶ月経ってもなしのつづてでしたので、どうなっていますかと聞くと、「応じられない」という返事が返ってきたのです。原発周辺で地震が多発している今、耐震性についての疑問に答えず、きちんと説明しないのは、「旧動燃」と同じ体質です。これで運転再開などとてもない話です。

福井県は、地域振興を取引材料に

福井県は7年前、もんじゅを取引に、エネルギー研究開発拠点化計画、北陸新幹線の早期建設、幹線道路の早期建設などを国に要請しました。今回も地域振興への支援を確約させる方針です。地域振興ともんじゅ運転再開の危険性を天秤にかけて、国に迫る構えを示しています。「毒を食らわば さらまで」をいつまで続けるのでしょうか。

新聞広告には「国家存亡をかけた技術開発」

資源エネルギー庁は2月23日の新聞広告で「もんじゅの運転再開のねらいは、データを集め、得られたデータで、15年後に高速増殖炉

の実証炉、40年後に実用炉の開発につなげる」としており、原子力機構の柳澤特別顧問は「資源の少ない日本にとって、国家の存亡を欠けた技術開発になる」と強調しています。

しかし、もんじゅの運転を許せば、それこそ事故が起こり、社会の存亡へと突き進む危険があります。冷却材のナトリウム漏洩火災の危険性はもとより、地震がもんじゅを襲えば、配管や機器が破壊され、炉心溶融事故、さらには炉心崩壊による核暴走事故に至る危険があります。

何と安全委員会が「すぐには止めるな」と！

運転再開を了承した原子力安全委員会の部会報告を見ると、「ナトリウム漏えい信号によって一律に原子炉停止などを行うことは、主要機器への影響を生じることとなる。安全上の重要度に応じて運転手順を見直されるべきだ」とコメントしています。「ナトリウム漏洩が疑われてもすぐに止めるな、少々の漏洩事故なら報告する必要はない」というに等しい、信じられない内容でした。これが「安全」委員会の実態なのです。

敦賀半島に大きな地震がおそらくかもしれない中、もんじゅの運転再開、敦賀原発1号炉の40年超え運転、美浜1号も延長する動きです。

私たちは、福井県で核汚染の写真展を持ち、原発の危険性を広く訴えたいと考えています。また、引き続き新聞折り込みをしていきます。支援カンパとご協力をお願いします。

「福井で核汚染の写真展開催」支援カンパ、さらなるお願い

原発は、日常的に死の灰を生み出し、環境を放射能で汚し、労働者をヒバクさせ、原発重大事故が起これば壊滅的な核災害をもたらします。

「ウラン採掘からチェルノブイリまで、核汚染の恐ろしさを訴える写真展」を福井県内各地で開く準備を進めています。2月28日現在、53,000円があつまっています。まだまだ資金が足りません。カンパのご協力をお願いします。

写真展開催のカンパ：1口1千円（何口でもよろしくお願いします）

振替口座 若狭ネット 00940-2-100687 ご連絡は、久保まで 072-939-5660

今後の予定

3月22日(月)午後2時～5時
イラクに平和を！ウラン兵器の禁止を！
非核・平和第19回学習会

場所: ヒューマインド JR環状線「芦原橋駅」下車 徒歩7分
主催: 地球救出アクション97



4月25日(日)午後1時半より
チェルノブイリ原発事故から
24年の集い

場所 あべのベルタ 地下鉄谷町線「阿部野橋」駅下車すぐ
主催 チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西



「森の国から」の新聞折り込みを続けています！
新聞折り込み基金へカンパのお願い

いつもご協力ありがとうございます。今回「森の国」NO.4号を発行しました。3万円かかりました。新聞、テレビ等の論調には、いつもながら厳しい記事が掲載されませんが、私たちの「森の国から」では、どうと正論で語りかけています。

「森の国から」を期待している声を、今日も聞きました。2月22日に折り込みました。これからも新聞折り込み基金にご協力をお願いします

松下(美浜町)

新聞折り込み基金: 1口五百円 (何口でもよろしくお願いします)

1口で 約80軒に 新聞折り込みできます。

振替口座 若狭ネット 00940-2-100687 ご連絡は、久保まで 072-939-5660

「編集後記」

2月9日 美浜2号炉事故19年のこの日、関電に申し入れをしました。原子力発電所の耐震性見直しでは地震動を小さく見積もっているという「ごまかし」を追及をしました。しかし、まともな回答は一切ありません。広報部の方は、「国の審議会です承されたものを蒸し返すな」とばかりの開き直りの姿勢で対応してきたのです。

人間不信に陥るような場面に出くわし、むなしさだけがこみ上げてきました。

人間は、誰でもそうでしょうね。自信あることについては、謙虚に、ゆとりを持って対応できます。

しかし、自信のないことについては、おろおろし、つつい虚勢をはるものです。

広報部の方の居直りのすがたは、まさに、自信のなさの表れなのでしょう。質問にまともに答えることができない関電の「耐震性の再評価報告」は、すぐに化けの皮がはがれるでしょう。 きよ子